

# 魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年7月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、7月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>




## 目次



目次	1
7月のトピックス5選	3
JAの垣根を超えた若手いちご農家の技術交流	3
閉鎖型育苗施設を利用したイタリア野菜類の栽培実証に向けた栽培者の募集	3
パクチー安定生産に向けた対策会議を開催	4
「つるむらさき」PRを強化!	4
西予市での豪雨災害からのねぎ産地の復興と学校給食の取組みを紹介	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
就農初期農業者らが農業機械のメンテナンスを学ぶ	6
就農初期農業者らが土壌還元消毒を学ぶ	6
地産地消型都市近郊農業を考える先進地事例視察を実施	7
農業者情報動画コンテンツの撮影を実施	7
ふるさと小包「土のめぐみ夏便」の発送	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
お茶摘み&手もみ茶体験で富郷茶の魅力をPR	8
■今治支局 地域農業育成室	9
令和5年度今治地区稲麦作研究連絡協議会総会で水稻の温暖化対策を協議	9
家族経営協定締結による経営発展を支援	9
集落営農組織が魅力発信に取り組む	10
さといもの優良種苗生産を目指したセル苗の定植	10
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	11
しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、岩城中学校、丹原高校生が農業体験実習	11
地域食材活用懇談会、学校給食試食会の開催	11
■今治支局 産地戦略推進室	12
地元量販店と連携した今治特産農産物の消費拡大について	12
■中予地方局 地域農業育成室	12
かんきつ基盤整備園営農計画で県オリジナル品種の栽培を啓発	12
かんきつ基盤整備園での土づくりと表土流亡防止対策を実証	13
島しょ部での鳥獣被害低減に向けた対策を協議	13
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
「ひめの凜」プレミアムクオリティを目指した中干し講習会の開催	14
施設レモンで天敵温存植物「スカエボラ」の導入実証を開始	14
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
猛暑に備え熱中症及び農作業安全の啓発	15
■南予地方局 地域農業育成室	15
紅プリンセスの摘果現地実証試験開始	15




高級菓子用果実の生産拡大に向けた意識統一 .....	16
セル苗増殖による種用さといもの生育促進 .....	16
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班 .....	17
松野町富岡集落が小麦の栽培と活用を検討！ .....	17
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班 .....	17
農業研修生にかんきつの省力栽培技術を紹介 .....	17
南宇和地区の関係機関が農家の経営安定に向けた研修会を開催 .....	18
県かんきつオリジナル品種の摘果講習会を開催 .....	18
■南予地方局 産地戦略推進室 .....	19
道の駅で三間産野菜の販売強化と販路拡大を支援 .....	19
■八幡浜支局 地域農業育成室 .....	19
鳥獣害対策に向けた活動の検討会を実施 .....	19
農業機械の安全利用と草刈り作業等の軽減化に向けて .....	20
新規就農者に基礎技術の習得をサポート .....	20
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班 .....	21
秋冬野菜の栽培技術、品質の向上へ直売所で勉強会を実施 .....	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班 .....	21
WCS 用稲現地講習会の開催 .....	21
広域型わなセンサー通信装置利用による有害獣捕獲檻見回り時間の削減 .....	22
マイネット・若手女性農業者との交流会を開催 .....	22
■八幡浜支局 産地戦略推進室 .....	23
家事負担を軽減！農繁期に役立つ時短料理の商品化を検討 .....	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ .....	23
さといも栽培管理の意識統一 .....	23
ハウス内環境の「見える化」の効果を再認識 .....	24
造成園地における緑肥を用いた土づくり .....	24
花き調査研究会で「さくらひめ」生産対策及び花木の有望品目導入を協議 .....	25
「ひめの凜」の中干講習会の開催 .....	25



## 7月のトピックス5選

標 題	JA の垣根を超えた若手いちご農家の技術交流		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年7月11日	場所	西条市明理川地区	
指導対象	西条市内若手いちご農家（12人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来）	
普及指導内容	<p>○JA えひめ未来と JA 周桑の若手いちご農家（概ね 50 歳以下）を対象に、現地研修会を実施し、これまでなかった JA 間の相互交流を新たに図った。</p> <p>○第1回の今回は、JA 周桑の若手農家のハウスにおいて育苗技術を学ぶとともに、統合環境制御装置や新規培土が導入された最新鋭のハウスの視察を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○農家からは、「JA ごとに育苗に使用する資材が異なっており、学びが多かった」との好評な意見が聞かれた。</p> <p>○統合環境制御装置については、「これからの時代は必要になってくると思う」との声が聞かれ、熱心な質問が飛び交い相互交流が図られた。</p> <p>○第2回の研修会は、8月に JA えひめ未来の若手農家のほ場で実施予定。</p>			
 <p style="text-align: center;">育苗ハウスの視察</p>		 <p style="text-align: center;">若手農家が育苗方法を説明</p>		<p><b>【統合環境制御装置】</b> ハウス内外にセンサーを取り付け、温度・湿度・CO<sub>2</sub>濃度、日射量、ハウス外風速などのデータをリアルタイムで測定しながら、そのデータに応じて天窓・側窓・暖房機・CO<sub>2</sub>発生機などを自動制御し、植物にとって最適な環境を作る装置。</p>



標 題	閉鎖型育苗施設を利用したイタリア野菜類の栽培実証に向けた栽培者の募集		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年7月13日	場所	さいさいきて屋	
指導対象	さいさいきて屋出荷者等（10人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○今治産イタリア野菜類の生産拡大を目指し、飲食店等の業務向け販売に取り組む地元直売所のさいさいきて屋と、栽培に興味のある若手生産者を対象にマイナー品目の栽培実証に係る説明会を開催した。</p> <p>○説明会では、当室が栽培期間の延長や安定供給を目指し先行して取り組んできた、閉鎖型施設を利用した栽培実証の結果や、同施設の苗を提供して新たに実施する栽培実証について説明し栽培者を募集した。</p>			
結果と今後	<p>○新たに4人が栽培実証に関心を示したことから、今後は同直売所を含めた3者による協議の場を設けて具体的な栽培品目や定植時期等を決定する。</p> <p>○また、同直売所との協議の結果、実証品目のリストを取引のある県内外の飲食店に提供するなどして業務向けニーズを調査することになった。</p>			
 <p style="text-align: center;">さいさいきて屋での説明会</p>		 <p style="text-align: center;">栽培実証についての説明</p>		 <p style="text-align: center;">生産希望者との個別協議</p>




標 題	パクチー安定生産に向けた対策会議を開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年7月12日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	パクチー生産者等 (24人)	連携機関	松山市、東温市、砥部町、JA えひめ中央、食品産業技術センター	
普及指導内容	<p>○生産者、市町、JA 等関係者を招集し、局予算事業「パクチー周年安定生産体制確立事業」に係る第1回対策会議を開催した。</p> <p>○周年栽培技術確立に向けた実証試験、加工品開発、栽培指針や出荷情勢、県内外でのPR活動について、これまでの取組みや本年度の計画について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○同会議には、新規生産者5人も参加し、パクチーの基本情報や栽培の注意点について熱心に受講し、活発な意見と質問が出された。</p> <p>○栽培上の課題となっている夏季の芯腐れ症状対策として、カルシウム剤散布試験を実施することとなった。</p> <p>○JA から市場評価として、香りや鮮度が良く高評価であること、今後の出荷量増大に期待が高まっていることが報告された。</p> <p>○今後も、実証ほを通じて新規栽培者の確保、面積拡大、周年栽培技術の確立を目指すとともに、主な出荷先である関西方面でのPR活動を展開していく。</p>			
				<p>左：講習を受ける新規生産者</p> <p>右：カルシウム剤散布時期の苗 (播種後30日)</p>



標 題	「つるむらさき」PRを強化！		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年7月15日～17日、18日、20日	場所	宇和島市三間町、松山市内	
指導対象	—	連携機関	JA えひめ南、(有)安岡蒲鉾、(株)フードスタイル、松山東雲短期大学	
普及指導内容	<p>○夏が旬の「つるむらさき」の認知度向上に向けて、関係者と協議しながら様々なPR強化に取り組んでいる。</p> <p>○15日～17日の道の駅イベントでは、地元業者とのコラボによる「つるむらさきじゃこ天」を販売した。18日は中予のスーパーを丸ごとジャックした販促イベント「つるむらさきフェスタ」について、20日には松山東雲短期大学と連携した食育を通じた情報発信活動の打ち合わせを行った。</p>			
結果と今後	<p>○「つるむらさきじゃこ天」は3日間で予定数量を完売するとともに、新聞やSNSでの情報発信により、着実に認知度向上につながった。</p> <p>○「つるむらさきフェスタ」の開催は8月中旬を予定しており、レシピ紹介や食育企画等の詳細な計画を詰めたのち、生産者、JA と連携し、つるむらさきの認知度向上に取り組む。</p>			
 <p>じゃこ天とのコラボ</p>		 <p>フェスタのアイデア出し</p>		 <p>東雲短大との打合わせ</p>



標 題	西予市での豪雨災害からのねぎ産地の復興と学校給食の取組みを紹介		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年7月7日	場所	野村町三島地区被災ほ場 西予市立野村小学校	
指導対象	(株)百姓百品村(農地所有適格法人) 百姓百品(株)(農産物直売所)	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○被災地域の農業者と連携しねぎ産地の復興に努めてきた同法人に対し、当室が栽培や販売促進等を支援しており、7月より市内の学校給食センターにねぎ等が供給されることとなった。</p> <p>○同産地をPRし、新たな販路開拓等につなげることを目的として、復興の状況や地産地消の取組みを報道機関に紹介する場を設けた。</p>			
結果と今後	<p>○同法人の被害状況やその後の復興の取組みを紹介するとともに、小学校で地元産野菜を使った給食や学校給食センターの栄養士による地産地消に関する出前授業を行い、同地域の将来を担う子どもたちに地域農業を身近に感じてもらった。</p> <p>○引き続き、地域一丸となって産地を発展できるよう、(株)百姓百品村を中心に支援していく。</p>			
				<p>【学校給食の取組】 令和5年7月から西予市内2か所の学校給食センターに野村産ねぎ等を供給することとなった。</p>
野村町三島地区ほ場		小学校における出前授業		

## えひめ農業NOW



標 題	就農初期農業者らが農業機械のメンテナンスを学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月4日	場所	東予地方局西条第2庁舎	
指導対象	就農初期農業者他（17人）	連携機関	ヤンマーアグリジャパン（株）、JA（周桑、えひめ未来）、新居浜市、西条市、	
普及指導内容	<p>○当室は、今年度2回目の「就農初期農業者研修会」（就農初期農業者の早期経営確立に向けた研修会）を開催した。</p> <p>○今回は、ヤンマーアグリジャパン（株）と協力し、ディーゼルエンジンとガソリンエンジンの違い等の講義や、トラクターと管理機のメンテナンスについての実演を行った。</p> <p>○当室からは、農作業中の事故の実態及び熱中症対策、家族経営協定について説明を行った。</p>			
結果と今後	○出席者からは、「トラクターと管理機の実演について、日頃の疑問を解決できた」との声が聞かれ、熱心に質問する様子もみられた。			
				<p>左：農業機械の基本について説明</p> <p>右：メンテナンスの実演</p>



標 題	就農初期農業者らが土壌還元消毒を学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月21日	場所	今治市朝倉現地ほ場	
指導対象	就農初期農業者他（6人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○就農初期農業者及び研修生の有志を対象に、今治市朝倉のトマト農家である藤田浩一郎氏から、施設栽培における土壌還元消毒に関する研修会を開催した。</p> <p>○今回の研修は、当室が昨年実施した就農初期農業者研修会参加者からの要望により行ったもので、参加者は米ぬかの投入やビニール被覆、耕うん、水の注入等の一連の作業を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「貴重な体験が出来た」「就農して13年間うまくいっていると聞き、更に興味が沸いた」との声があった。藤田氏からは「今まで農業ができてきているのは多くの人にお世話になったおかげ、今度は自分が恩返ししていく番」と、参加者からの質問にも丁寧に回答していただいた。</p> <p>○また、参加者から「天ビニールの張替え作業も体験させて欲しい」との要望が出たことから、次回の研修会の際に、天ビニール張りの体験研修の参加者を募る予定である。</p>			
				
藤田夫妻と参加者		米ぬかの投入作業		ビニールの被覆作業

標 題	地産地消型都市近郊農業を考える先進地事例視察を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月5日	場所	久万高原町	
指導対象	(有)別子木材センター(1人)、生産者(2人)	連携機関	新居浜市、久万高原町、久万高原農業指導班	
普及指導内容	<p>○別子山から新居浜市内の産直市への、より効率的な出荷体制を確立するため、久万高原町において道の駅「天空の郷さんさん」の集荷システムについて先進地事例調査を行った。</p> <p>○また、久万高原農業指導班のほ場において、大玉トマトとピーマンの栽培を視察し、別子山地区における農産物の栽培技術向上を図った。</p>			
結果と今後	<p>○今年度、大玉トマトの栽培を開始した参加者からは「先進地ならではの細やかな栽培管理を学ぶことができ勉強になった」との声が聞かれた。</p> <p>○今後は、今回の視察内容を踏まえ、生産者や関係機関とともに「第2回別子山地域出荷体制等検討会」を開催する予定。</p>			
				<p>左：集荷システムについて意見交換 右：大玉トマトの栽培管理について説明を受ける参加者</p>



標 題	農業者情報動画コンテンツの撮影を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月27日	場所	生産者ほ場	
指導対象	アスパラガス生産者、絹かわなす生産者、ぶどう生産者	連携機関	JA(周桑、えひめ未来)、パパイズム	
普及指導内容	<p>○当室では、令和5年度局予算事業である「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」において、小学生向けポータルサイトを立ち上げるため、コンテンツの1つとして管内で活躍する農家にスポットを当てた動画の撮影を企画した。</p> <p>○動画撮影は、県内外で活躍するインフルエンサーのパパイズムに委託した。</p> <p>○今回は、愛あるブランド産品に認定されているアスパラガスと絹かわなす、近年、丹原地域で栽培面積が増えているぶどうを生産している農家の働く姿やほ場の様子、収穫から出荷調整までの作業風景、子どもに向けたメッセージなどを撮影した。</p>			
結果と今後	<p>○撮影した動画は、編集後にポータルサイトの更新に合わせて随時、県 YouTube チャンネルへアップロードすることで、地産地消・食育推進に活用する。</p> <p>○今後は、年内に7経営体について撮影する予定。</p>			
				<p>左：アスパラガス農家の撮影風景 右：絹かわなす農家の撮影風景</p>






標 題	ふるさと小包「土のめぐみ夏便」の発送		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月21日	場所	西条市丹原農村環境改善センター	
指導対象	西条市生活研究協議会丹原支部 (22人)	連携 機関	西条市	
普及指導 内容	<p>○同協議会丹原支部では夏と冬の年2回、会員が生産した農産物と加工品の詰め合わせを「土のめぐみ」として県内外に発送している。</p> <p>○当室では、発送に合わせて品質表示に係る衛生指導や購入者を対象とした意向調査の支援を行った。</p> <p>○夏便の注文数は158個で、ミニかぼちゃやタマネギなど旬の野菜や梅干しなど11品目を詰め合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○今回から2人の新規会員が加わり、地域の食文化を普及・継承していく活動に力を入れていこうと話し合った。</p> <p>○今後は、地域特産のはだか麦を使ったみそ作りの継承に取り組んでいる会員が、みそ作り動画の作成を計画している。</p>			
				<p>左：商品の箱詰め作業</p> <p>右：土のめぐみ夏便</p>


標 題	お茶摘み&手もみ茶体験で富郷茶の魅力 PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年7月2日	場所	JA うま富郷出張所	
指導対象	富郷茶業部会（7人）	連携 機関	四国中央市、JA うま	
普及指導 内容	<p>○県内有数の茶産地である同市の富郷地域で「お茶摘み体験 in 富郷」が4年ぶりに開催され、市内から参加した9組の家族31人（大人18人、子供13人）に対し、富郷茶の産地紹介と新茶の販売及びPR活動が行われた。</p> <p>○当班は、富郷地域の産地概要とお茶の栽培、製茶の工程について動画で紹介し、生産者とともにお茶摘みや手もみ茶づくりの方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○お茶ができるまでを摘み取りから体験し、急須でお茶をいれる楽しみ方を学んだ参加者からは、「紅茶やほうじ茶も手づくりしてみたい」との声が聞かれた。</p> <p>○消費者の興味や関心を惹く産地での体験は、販売促進や認知度向上につながることを期待できるため、今後とも交流機会の創出や活動促進を支援していく。</p>			
				<p>左：生産者から手習いした茶摘みに夢中</p> <p>右：家族みんなでワイワイ手もみ茶づくり体験</p>


標 題	令和5年度今治地区稲麦作研究連絡協議会総会で水稲の温暖化対策を協議		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月20日	場所	JA おちいまばり玉川支所 会議室	
指導対象	水稲・麦生産者（13人）	連携機関	JA おちいまばり、NOSAI えひめ、全農えひめ、今治市	
普及指導内容	<p>○この協議会は、今治地区の稲・麦・大豆の振興を目的として、生産者と関係機関で構成されており、総会で地区のリーダーと水稲の温暖化対策を協議した。</p> <p>○当室から近年の猛暑による品質低下を防ぐ新たな取組みとして、中干しの時期や程度を改善することで品質が向上し、生産安定につながることを説明した。</p> <p>○この対策を「ひめの凜」で先行して実施したところ、品質向上に有効であったことから、今年度より全品種に適応した指針「稲作ごよみ」に反映させており、水稲農家に対応を呼び掛けている。</p> <p>○また、県農林水産研究所からは、水稲極早生有望品種「にじのきらめき」の品種特性と現状について講演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○中干し方法の変更による稲作改善については、慣行の中干し時期と異なることから、普及・定着には数年かかると思われる。認定栽培者制度の「ひめの凜」で継続して効果を検証し、今治地域全体での稲作改善につなげる。</p> <p>○「にじのきらめき」については、「あきたこまち」に替わる品種として生産者の関心もあり、試作の希望もあった。</p>			
 <p>中干し開始時期の違いによる莖数の推移(2020年)</p>		 <p>県農林水産研究所職員の講演</p>		



標 題	家族経営協定締結による経営発展を支援		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月25日	場所	今治支局	
指導対象	締結農家（2戸）	連携機関	今治市	
普及指導内容	<p>○農業経営に参画する家族が、やりがいと夢をもち経営に参画することを目的に、役割分担や労働時間、収益の配分等を明記した「家族経営協定」の締結を提案している。</p> <p>○今回、2戸の農家が経営主の世代交代と農業者年金への加入をきっかけに、家族経営協定の締結に至り、同市農林水産課長と当室長の立会いのもと調印式を実施した。</p> <p>○2組は「継続性のある農業経営」「家族全員が責任を持ち経営に意欲的に取り組む」ことを目標に掲げ、経営発展に取り組む。</p>			
結果と今後	<p>○締結農家は「感謝の気持ちを忘れず、夫婦仲良く健康で楽しく頑張りたい」と意気込み、立会人からは「話し合いながら協定書を作成した気持ちを忘れずに今後も農業経営に取り組んでもらいたい」等の激励の言葉があった。</p> <p>○今後、経営改善計画書の共同申請や農業者年金加入を行う予定で、女性農業者の地位向上が期待される。</p> <p>○今回の調印により、同市の家族経営協定締結数は43戸（今回の見直し、再締結1戸含む）となった。</p>			
				<p>左：協定書に調印</p> <p>右：協定書を手にする締結農家</p>



標 題	集落営農組織が魅力発信に取り組む		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月7日	場所	今治支局	
指導対象	農事組合法人かみあさライスセンター（1人）	連携機関	農業経営サポートセンター	
普及指導内容	<p>○同ライスセンターは、米麦を中心に経営展開しており、これまでに穂肥診断等のデータに基づく良食味米の生産に取り組み、「かみあさくら米」として直接販売を行っている。</p> <p>○今年度は、新たに米の販売促進と朝倉地区農業の魅力発信を目的としたホームページを開設することになり、「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」メンバーでもある同ライスセンターの若手女性オペレーターを中心に企画・運営していく。</p> <p>○当室は農業経営サポートセンターと連携したコンサルティングにより、注目されるホームページ作成を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○コンサルティングにより、SNS との連携や「購入情報」「お客様の声」を追加するなど、閲覧者と双方向につながるホームページを開設した。今後、販売会や体験イベントなど魅力ある情報を発信していく。</p> <p>○ホームページを企画・運営するオペレーターは、今後「えひめ農林水産レポーター」として農林水産業の情報発信の一翼を担う。</p> <p>○今後も販売促進及び水稻生産技術の支援を継続していく。</p>			
<p>【えひめ農林水産レポーター】 農林水産人魅力発信事業において、女性目線で SNS 等を利用して農林水産業情報の配信業務を担う。</p>				
		ホームページの QR コード	ホームページの開設支援	




標 題	さといもの優良種芋生産を目指したセル苗の定植		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月14日	場所	さといもセル苗定植ほ場（今治市朝倉）	
指導対象	(株) ファーム咲創	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○さといもの秀品率向上や安定生産を実現するため、優良種芋の供給体制構築を目指し、JA おちいまばり等と連携して運営ルールづくりに取り組んでいる。</p> <p>○今年度、無病の優良種芋を生産者に供給していくため、セル苗増殖技術を活用した共同育苗に取り組んでおり、セル苗として育てた 600 株を実証ほ場 2 a に定植した。</p> <p>○今後は、通常栽培に比べ株間を狭めた栽培により、植付けの機械化に必要となる S～M サイズの小型種芋の生産効果を検証していく。</p>			
結果と今後	<p>○当室では、生産者（90 人）へ安定供給を図るため、引き続き、JA と連携して種芋生産委託農家の選定や省力生産技術の検討を進め、優良種芋生産体制の構築を目指す。</p>			
<p>【セル苗による増殖技術】 県農林水産研究所が開発した優良な種芋を短期間に大量増殖させる技術。親芋の副芽を活用してセル苗育苗により増殖させる。</p>				セル苗の定植



標 題	しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、岩城中学校、丹原高校生が農業体験実習		機関名	今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班
年月日	令和5年7月3日、7月6日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	岩城中学校1年生（8人） 丹原高校園芸科学科1年生（25人）	連携機関	上島町	
普及指導内容	○島特産のかんきつ類に関する学習の一環として、果樹栽培の専門講義と早生温州みかんの摘果や紅まどんなの夏季の枝梢管理作業を体験した。 ○当班から、果実生長のプロセスや摘果作業・枝梢管理作業等の栽培管理について説明し、作業体験を行った。			
結果と今後	○生徒全員が、熱心に作業に取り組み、作業の重要性との大変さについて理解が深まり、「地域の特産品を学ぶ上でとても参考になった」と好評であった。 ○また、当駐在所の前身である旧農事試験場岩城試験地が設置されてからこれまでの経緯や、現在の地域に密着した岩城駐在所の取組みについて紹介したところ、県のかんきつ産地振興策についての関心が高まった。 ○12月ごろ、収穫作業体験を行う予定である。			
				
摘果作業に取り組む中学生			枝梢管理作業に取り組む高校生	



標 題	地域食材活用懇談会、学校給食試食会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班
年月日	令和5年7月5日	場所	上島町岩城	
指導対象	学校給食食材提供者「うまい会」（5人）	連携機関	上島町	
普及指導内容	○上島町と県の共催で、学校給食への地域食材活用を目的に、同会会員を対象として地域食材活用懇談会及び学校給食の試食会を開催した。 ○当班からは、直売所との連携の課題や新規生産者等の育成対策等について提案した。			
結果と今後	○令和4年度は町内産の農畜産物54品目、2805.5kgの食材を提供（全体シェア22%）。 ○周年利用頻度の高い品目の供給率が低下傾向にあり、生産情報をできるだけ多く学校側に知らせることで利用率の向上につながると双方の意見がまとまった。 ○島の直売所との連携は生産情報の収集が課題で早期の連携は難しい。生産者の高齢化が進んでいることから新規食材提供者の育成が急務であることを申し合わせた。			
				
左：地域食材活用懇談会			右：地域食材を活用した給食試食	



標 題	地元量販店と連携した今治特産農産物の消費拡大について		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年7月21日	場所	レモン園地等（今治市大三島）	
指導対象	JA おちいまばり甘長とうがらし部会、(株) 楽農研究所	連携機関	(株) フジ・アグリフーズ JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○21日に今治産レモンの販売に関心を持つ(株)フジ・アグリフーズ(スーパーフジの青果卸)と大三島のレモン栽培園地を視察するとともに加工事業者等とのマッチングを実施した。</p> <p>○また、(株)フジ・アグリフーズと今治産甘長とうがらしの販売拡大について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○マッチングの結果、まずは、レモンの集荷事業者が製造するレモン果汁の商品等をまずは県内店舗で販売することになった。</p> <p>○また、局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」で地元短大生と考案した甘長とうがらしの調理レシピを(株)フジ・アグリフーズのHPでも順次、公開することになり、甘長とうがらしの売り場もフジ各店で拡充することになった。同社とは引き続き地元産農産加工品の消費拡大に向けて連携を強化する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>レモン販売に係るマッチング</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>レモン園地の視察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アグリフーズHPに掲載されたレシピ</p> </div> </div>				

標 題	かんきつ基盤整備園営農計画で県オリジナル品種の栽培を啓発		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月21日	場所	中予地方局	
指導対象	泊地区樹園地整備事業推進委員会 (27人)	連携機関	中予地方局農村整備第一課、松山市 JA松山市、土地改良事業団体連合会	
普及指導内容	<p>○「畑地帯総合整備事業」によるかんきつ園地の基盤整備を計画している泊地区(興居島)の説明会において、県オリジナル品種の栽培啓発を行った。</p> <p>○事業実施予定の6工区(7.6ha)では現在、農家の希望やJAの奨励品種を踏まえ、収益性が高い優良中晩柑を主体とした植栽となるよう検討している。</p> <p>○当室は、将来、夢と希望が持てる営農を目指すため、優良中晩柑として県が育成した「紅まどんな」「甘平」「紅プリンセス」の収益性や栽培上の留意点等を説明し、整備園での栽培を啓発した。</p>			
結果と今後	<p>○農家は7月末までに植栽品種を再検討し、事業計画の作成を経て国の事前審査(ヒアリング)を受けることとしており、令和6年度には工事に着手する予定。</p> <p>○引き続き関係機関と連携し、農家個々の要望等を踏まえながら営農計画作成支援を行い、再編する樹園地での「儲かる農業の実現」を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：基盤整備園での営農計画について検討</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：泊地区での整備計画</p> </div> </div>				


標 題	かんきつ基盤整備園での土づくりと表土流亡防止対策を実証		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月29日、7月7日	場所	松山市下難波	
指導対象	下難波地区基盤整備受益農家（3人）	連携機関	農産園芸課、農村整備第二課	
普及指導内容	<p>○「農地中間管理機構関連農地整備事業」の園地整備では、既存の傾斜園地等を造成し区画整理することで、生産性の高い優良園地の創出を目指している。</p> <p>○造成園地では、早期成園化を目指す上で土づくりによる地力増進を必要とするが、苗木植栽前の堆肥投入のみでは土づくりが不十分なうえ、大雨等による表土流亡の発生が懸念される。</p> <p>○そこで、当室は、ソルゴーやクロタラリア等の緑肥植物の栽培実証により、事前に堆肥を投入している園地での土づくりに加えて、堆肥投入を要しない箇所（通路やほ場外周部等）での表土流亡防止対策に取り組んでいる。</p>			
果と今後	<p>○緑肥植物5種類を播種し発芽状況を確認する中で、土づくりの有無や緑肥植物の品種により発芽率の違いが確認できた。</p> <p>○10月に秋播き用緑肥植物を播種し、中予地区の土壤に適応する品種の検討を行う。</p>			
				
	梅雨期の大雨で生じた表土流亡	播種後の覆土と整地	発芽したクロタラリア	

標 題	島しょ部での鳥獣被害低減に向けた対策を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月12日	場所	松山市由良地区（興居島）	
指導対象		連携機関	JA えひめ中央、松山市、猟友会（株）野生鳥獣対策連携センター	
普及指導内容	<p>○「えひめ地域鳥獣管理専門員総合支援事業」に係る実践講座を開催し、JA 営農指導員、市担当者、地元猟友会長を迎えて鳥獣被害の現状と有効な対策及び地域体制づくりの強化について協議した。</p> <p>○当地区では、特にイノシシとカラスによるかんきつ被害が深刻であることから、園地を巡回し、被害状況や時期を聞き取り、出没箇所を確認した。</p> <p>○アドバイザーの（株）野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏から、カラスの追払い方法や、イノシシ対策としてワイヤーメッシュ柵の補強や捕獲方法等についてアドバイスを受けた。</p>			
結果と今後	<p>○アドバイザーからの助言や猟友会の意見を踏まえ、イノシシやカラスの被害対策を目的とした実践活動や技術実証を行うこととした。</p> <p>○今後、当地区における集落ぐるみの“攻め”“守り”の対策事例を他地域に波及させ、鳥獣被害の低減を図る。</p> <p>○なお、今年度管内からは、指導的立場にある2人（JA 営農指導員及び普及指導員）が、えひめ鳥獣管理専門員の資格取得に向けて地域活動を実践する。</p>			
			<p>左：被害の現状と有効な対策について協議</p> <p>右：現地巡回でイノシシの足跡を確認</p>	

標 題	「ひめの凜」プレミアムクオリティを目指した中干し講習会の開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年7月6日	場所	JA えひめ中央 伊予中央支所 他	
指導対象	「ひめの凜」生産者（22人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、農産園芸課、県農林水産研究所	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊予地区の「ひめの凜」生産者に対して、栽培上の留意点を徹底するため、講習会を実施した。</li> <li>○室内研修では、中干しの効果や実施時期、中間追肥の施用効果、出穂期までの水管理、病虫害防除等、今後の栽培管理を徹底するよう指導した。</li> <li>○現地では、代表的な生産ほ場において、茎数、葉色等、生育状況の観察により、相互評価を行った。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関が連携し、「美味しさ基準」のプレミアムクオリティを目指した病虫害対策や水管理等、栽培指導に取り組む。</li> <li>○伊予地区管内では今年度、57人の生産者が52.6haの「ひめの凜」生産を行っている。</li> </ul>			
				<p>左：今後の管理等について説明 右：生育状況の相互評価</p>

標 題	施設レモンで天敵温存植物「スカエボラ」の導入実証を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年7月7日	場所	双海町上灘	
指導対象	施設レモン栽培農家（2人）	連携機関		
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管内の施設レモン栽培農家に対し、ハダニ類の天敵であるスワルスキーカブリダニの定着を促すため、天敵温存植物「スカエボラ」を試験的に施設内に導入した。</li> <li>○かんきつ類における当該天敵の利用は、通常、市販製剤を枝につるして放飼するが、天敵の特性上、越冬できず定着期間が限定されるなどの課題がある。</li> <li>○そこで、天敵の定着率を高めるため、温存植物の導入効果の実証を開始した。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後は、温存植物導入による定着や越冬状況を調査し、有効性を検証する。</li> <li>○併せて、選択性農薬の使用など、天敵に配慮した防除体系の検討を行う。</li> </ul>			
				<p>左：天敵温存植物のスカエボラ 右：乾燥による生育不良を防ぐため、かん水施設周辺部（株元）に定植</p>



標 題	猛暑に備え熱中症及び農作業安全の啓発		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年7月6日～13日	場所	久万高原町内各地	
指導対象	水稲農家（115人）	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○久万高原町内で実施した水稲後期管理講習会に併せて、農作業安全及び熱中症対策について啓発活動を行った。</p> <p>○農業者の高齢化に伴い、発生が増加している農作業死亡事故の発生要因と対策を説明するとともに、熱中症について、「高温時の作業を避ける」「こまめな休憩と水分補給」「空調服や冷感着衣の利用」等の防止対策を徹底するよう注意喚起した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、町内でも猛暑日が続いていることから、作業中の熱中症対策について熱心に耳を傾けていた。</p> <p>○今後も現場活動を通して、熱中症の危険性や防止対策を広く呼び掛けていく。</p>			







左：熱心に聞き入る農業者  
右：配布した熱中症対策資料



標 題	紅プリンセスの摘果現地実証試験開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月3日、21日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	紅プリンセス栽培農家	連携機関	JAえひめ南	
普及指導内容	<p>○南予地域に適した紅プリンセスの摘果時期や適正着果量を明らかにするため、農家ほ場（露地・ハウス）で摘果試験を実施した。</p> <p>○摘果は、県果樹研究センターが作成した栽培マニュアルを基準とし、時期を20日程度遅らせる区を設置。摘果を遅らせることにより、果実が大きくなりすぎず品質を安定させることが狙い。</p>			
結果と今後	<p>○今後は肥大及び品質調査を行い、南予地域に適した摘果方法を明らかにする。</p> <p>○さらに、成木化する園地での摘果指導の指標とする。</p>			


左：葉数をカウントしながらの摘果作業  
右：果実着果状況（摘果前）



標 題	高級菓子用果実の生産拡大に向けた意識統一		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月13日、19日	場所	南予地方局	
指導対象	高級菓子用果実の生産者	連携機関	(株)源吉兆庵、JA えひめ南、関係市町、愛媛県	
普及指導内容	<p>○加工用果実の生産に関わる関係機関が一堂に会し、今年産の生産状況の共有や、新たな技術導入等について情報交換した。</p> <p>○今年から(株)源吉兆庵がかきの栽培に取り組むほか、びわの栽培に新たな若い生産者が加わるなど、生産量増加に向けた新たな動きも紹介された。</p> <p>○当室では、7月13日に、新たにびわ生産を始める生産者へのせん定技術等の指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○加工用果実の安定生産に向け、かきの摘果やびわのせん定等の巡回指導を行う。</p> <p>○新規生産者に対しては、関係機関と連携して細やかな栽培指導を徹底する。</p>			
				<p>左：生育状況や新たな技術導入等を共有</p> <p>右：びわの新規生産者へのせん定指導</p>

標 題	セル苗増殖による種用さといもの生育促進		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年7月27日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	セル苗実証農家2戸	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○さといものセル苗増殖による種芋確保では、通常は利用しない親芋の副芽から次年度の種芋生産用の元芋を作出することで、健全な苗を大量に確保することができる。</p> <p>○今年度は、親芋の伏せこみや副芽の切り出し作業の時期を早めたことに加え、育苗管理中の温度管理の徹底により、昨年より約1ヶ月早い6月上旬～中旬に本ぼへの定植が完了した。</p> <p>○定植後は、土入れやかん水、除草作業等の基本管理の徹底を指導し、生育促進を図っている。</p>			
結果と今後	<p>○昨年から引き続き実証している農家からは「昨年と比較して定植時の苗が大きく生育が良い。優良な種芋を確保できるよう今後の管理に注意したい」との声があった。</p> <p>○今後も定期的な巡回指導を行い、セル苗増殖技術による優良な種芋確保の確立を目指す。</p>			
				<p>左：定植直後</p> <p>右：定植2か月後の生育状況</p>

標 題	松野町富岡集落が小麦の栽培と活用を検討！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年7月31日	場所	北宇和郡松野町富岡	
指導対象	松野町富岡集落	連携機関	松野町	
普及指導内容	<p>○集落営農組織の立ち上げを検討している松野町富岡集落では、昨年11月から遊休農地8aを活用し小麦の試験栽培を行っている。</p> <p>○当班では、ほ場の排水対策や、収量・品質を大きく低下させる小麦赤かび病の防除対策の徹底等を指導してきた。</p>			
結果と今後	<p>○6月4日に収穫した小麦(212kg)を7月31日に製粉し、134kgの小麦粉を確保するとともに、同地区で小麦の栽培が可能なことを確認した。</p> <p>○製粉した小麦粉は、地産地消の取組みとして地区の生活研究グループや地元のベーカリーにサンプル提供し、パン等の試作品の開発を検討する予定。</p> <p>○同集落では他の品目の実証も行い、栽培管理の難易度や収益性などを検討した上で、地域に適した品目を選定することにしており、当班では引き続き、同集落の活動活性化に向け支援を行う。</p>			
				<p>左:小麦の収穫作業 右:製粉された小麦粉</p>

標 題	農業研修生にかんきつの省力栽培技術を紹介		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年7月5日	場所	愛南町平城	
指導対象	JA えひめ南・就農研修生3人	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○JA えひめ南・南宇和研修ほ場の就農研修生3人を対象に、スムーズな就農・定着に向けたかんきつの栽培講習を実施している。</p> <p>○今回、就農後の園地を探している研修生に対し、作業性の観点から、樹と樹の間隔が一定量確保されている「独立樹園」を選ぶことが重要であることを伝えるとともに、「密植園」における対策として、縮間伐の進め方を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○ドローンで撮影した立体画像を用いた説明により、参加者からは「縮間伐の前後の違いが分かりやすく、独立樹の利点が理解できた」、「研修後の園地探しに役立てたい」と好評であった。</p> <p>○引き続き、農業研修生のスムーズな就農・定着に向け、関係機関と連携し支援を行う。</p>			
		<p>かんきつの省力栽培技術を講習</p>		

標 題	南宇和地区の関係機関が農家の経営安定に向けた研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年7月27日	場所	愛南町平城	
指導対象	南宇和地区営農指導連絡推進会議会員	連携機関	愛南町、JA えひめ南、南宇和高校	
普及指導内容	<p>○気象変動に対応した農家の経営安定を目的に、関係機関で組織する営農指導連絡推進会議において、収入保険や果樹共済の研修を企画・実施した。</p> <p>○これは、当地域の基幹作物である河内晩柑等の中晩柑は、越冬が必須で厳寒期に寒害等の気象災害を受けるリスクがあるため、農家が自分の経営に応じた制度選択ができるよう、県農業共済組合の職員を講師に招いて開催した</p>			
結果と今後	○研修会では、両制度の仕組みや加入状況のほか、収穫後貯蔵中の果実の損耗は収入保険の支払いの対象にはなるが農業共済では対象にはならないなど、補償範囲の具体的な説明もあり、農家の経営安定に対する関係者の意識を高めた。			

【南宇和地区営農指導連絡推進会議】  
南宇和地区の会員相互の研究と連携を深め、地域農業の振興を図ることを目的とした組織。  
下部組織に作物園芸部会、果樹部会、畜産部会があり、研修会、実証試験等を積極的に実施している。



農家の経営安定に向けた研修会


標 題	県かんきつオリジナル品種の摘果講習会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年7月28日	場所	愛南町御荘平山	
指導対象	県かんきつオリジナル品種生産者 JA えひめ南研修生	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○JA えひめ南と連携し、「甘平」「紅まどんな」「紅プリンセス」などの県オリジナル品種を栽培している生産者と JA 研修生を対象に摘果講習会を開催した。</p> <p>○当日は、紅プリンセスの果実の特徴や肥大を説明するとともに、植栽した苗木の早期育成に向け、主枝先端の果実は摘果するよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「今まで樹冠内部に着果させていたが、枝の先端に成らせる必要性がよく分かった」、研修生からは「サイズの揃った果実を着果させることが重要だということが分かった」等の感想が聞かれた。</p> <p>○今後も継続し、県オリジナル品種の高品質生産に向けた指導を進めていく。</p>			







紅プリンセスの特徴説明







摘果方法の指導

標 題	道の駅で三間産野菜の販売強化と販路拡大を支援		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年7月15日～17日、18日、25日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	道の駅みま、同駅出荷者	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○道の駅の20周年イベントに合わせ、夏野菜詰め合わせセットや特設コーナー設置、オリジナル野菜スイーツ販売等で三間産夏野菜の魅力を発信した。</p> <p>○また、同駅は店舗以外での販路開拓に向けて、北海道の道の駅との連携販売の商材として河内晩柑を検討しており、9月の現地イベントで販売する果実の個装冷蔵保存を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○旬の魅力や品目ごとの特徴、保存方法の掲示、陳列方法の工夫など購入意欲を高める情報提供が功を奏し、3日間の野菜売上は計画を大きく上回った。</p> <p>○個装による長期冷蔵に取り組む河内晩柑は、定期的な経過観察を行う予定。</p>			
				
夏野菜&野菜スイーツのコーナーを設置		個装された状態を確認		



標 題	鳥獣害対策に向けた活動の検討会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月18日	場所	八幡浜市川上地区公民館・現地ほ場	
指導対象	川上地区の代表生産者（2人）	連携機関	農産園芸課、八幡浜市、専門事業者	
普及指導内容	<p>○八幡浜市における鳥獣被害額は約2,000万円と高止まり傾向の中、全被害額のうち約60%をイノシシが占め、その生息数は年ごとに増加していると推察される。</p> <p>○防護柵による「守り」だけでなく、イノシシの捕獲強化による「攻め」も必要である中、当室は、特定の生産者に負担を掛けない地域ぐるみの鳥獣害対策の実施に向け、連携機関とともに地元生産者と活動内容の協議及び現地巡回を行った。</p>			
結果と今後	<p>○代表生産者とともに、①被害場所の特定、②箱わなによる捕獲に向けた効果的な餌付け方法の検討、③既存の防護柵の補強を行い、地域生産者への波及を図ることとした。</p> <p>○また、現地巡回では、イノシシが頻繁に出没していると推測される場所を確認し、有効なわなの設置場所を検討した。</p> <p>○今後は、自動撮影カメラを利用し、上記の取組に対するイノシシの反応を記録し、効果の検証を行うとともに、地域生産者に対策の実践に向けた理解を促す。</p>			
				
		<p>左：関係者と意見交換</p> <p>右：イノシシの移動経路を共有</p>		



標 題	農業機械の安全利用と草刈り作業等の軽減化に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月26日	場所	えひめ農業未来カレッジ農業機械研修場	
指導対象	八西地区家族経営協定ネットワーク 推進協議会員 (21人)	連携 機関	えひめ農業未来カレッジ	
普及指導 内容	<p>○かんきつ農家の農業機械利用による労働軽減に向けて、安全利用講習とドローンや最新の草刈機の実演研修を開催した。</p> <p>○研修会では、当室から農業機械を安全に利用するための注意点などを講習したのち、ドローン防除の現状について情報提供を行った。その後、メーカーの担当者が草刈機の特徴や導入メリット、デメリットを説明し実演した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「ロボット草刈機は効率的な作業につながるが、傾斜地の多いかんきつ園で活用できるように検討が必要」「ドローン防除は、今後の性能向上に期待する」といった声が聞かれた。</p> <p>○研修会には家族(夫婦・親子)で参加しており、当室では、夏場の負担になっている草刈りや防除作業について、少しでも労働軽減につながるよう、かんきつ園での改良点や導入に向けた園地整備等について、是非家族で話し合っ欲しいと呼びかけた。</p>			
 		<p>左：ロボット草刈機の説明 右：自走式草刈機の実演</p>		



標 題	新規就農者に基礎技術の習得をサポート		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月31日	場所	八幡浜市八代	
指導対象	新規就農者 (5人)、農業研修生	連携 機関	八幡浜市、伊方町	
普及指導 内容	<p>○新規就農者の技術力向上を目的に、シトラス講座の摘果講習会を開催した。</p> <p>○本講座は、実践により学ぶことができ、分かりやすく身につけやすいと好評。今回は、的確な技術指導ができるよう少人数にしぼり、温州みかん、中晩柑の時期別の摘果を実演・実習した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、作業を進める中で自身の判断基準を身に付け、摘果目安等と比較するほか、参加者間で意見交換しながら作業し、理解を深めた。</p> <p>○当室では、新規就農者の早期経営安定に向け、地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」により地区別交流セミナーを9月に開催し、マルドリ実証結果や経営指標等を紹介する。</p>			
<p>【シトラス講座】 就農5年以内の新規就農者を対象に、せん定、摘果などの技術研修や、財務・労務などの経営研修を通じて、担い手としての資質向上や早期経営安定を図る。</p>		 		
		不知火の摘果指導		摘果を実践する新規就農者


標 題	秋冬野菜の栽培技術、品質の向上へ直売所で勉強会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年7月18日	場所	内子フレッシュパークからり	
指導対象	野菜出荷者（58人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○秋冬野菜の栽培開始前に、からり出荷者を対象に、収量や品質の向上を目指す勉強会を実施した。</p> <p>○ほ場の準備をする際の土壌診断にもとづく適正施肥や、堆肥投入による土づくり等の基本管理指導に加え、通常夏に収穫するズッキーニやかぼちゃ等の秋冬収穫作型と品種を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、栽培している野菜の管理や、土づくり方法等について、積極的に質問が寄せられた。</p> <p>○今後も、定期的な勉強会を予定しており、安定生産・出荷指導と新たな品目提案により、直売所の更なる活性化を支援し、出荷者の所得向上を目指す。</p>			
 		<p>左：新たな野菜作りを提案 右：勉強会参加者</p>		

標 題	WCS 用稲現地講習会の開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年7月13日	場所	西予市野村町溪筋	
指導対象	溪筋地区 WCS 用稲農家(15人)	連携機関	南予家畜保健衛生所 西予市農業支援センター	
普及指導内容	<p>○管内の畜産農家へ WCS 用稲を安定的に供給するため、実証ほの設置、栽培技術の指導等により生産拡大への取組みを進めている。</p> <p>○その一環として、溪筋地区において、栽培ほ場 17 か所を巡回し、葉色 (SPAD 値) と草丈の調査を行い、十分な中干しの実施、根の活力維持、収穫前 30 日頃からの落水を遵守することなどを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○当地区では栽培者が 3 人増加し、栽培面積が 12ha に拡大するなど、安定した収量の確保が見込まれる。</p> <p>○今後は、JA ひがしうわ耕畜連携連絡協議会と連携し、WCS 用稲を中心とした飼料作物の生産拡大、東宇和コントラクター研究会等コントラ組織による収穫調製作業を支援し、安定供給につなげる。</p>			
 		<p>左：WCS 用稲栽培ほ場を巡回 右：講評、意見交換会</p>		


標 題	広域型わなセンサー通信装置利用による有害獣捕獲檻見回り時間の削減		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年7月18日	場所	西予市三瓶町皆江	
指導対象	皆江地区農業者	連携機関	農林水産研究所、西予市	
普及指導内容	<p>○広域型わなセンサー通信装置の実証を行っている皆江地区を巡回し、実証農家から見回り作業時間と捕獲おりの稼働状況について聞取調査を行った。</p> <p>○また、中継機を経由して通信装置及び捕獲おりの動作確認を行い、通信可能域の拡大範囲を推定した。</p>			
結果と今後	<p>○通信装置の設置により、1捕獲檻当たり見回り作業時間は、年間60時間から30.5時間に削減され、効率化につながることが確認できた。</p> <p>○今後は研修会等で周知することで、捕獲檻設置数を増加するとともに、中継機を経由して通信可能域を拡大し、地区全体を網羅した設置につなげる。</p>			
 		<p>左：通信装置及び設置おりの動作確認</p> <p>右：通信装置の設置状況</p>		



標 題	マイネット・若手女性農業者との交流会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年7月27日	場所	西予市宇和町	
指導対象	マイネット会員（11人）、若手農家女性（6人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○西予市内で、農業経営のパートナーとして資質向上に努める女性組織「マイネット」が若手女性農業者との交流会を開催した。</p> <p>○本交流会は「ひめの国一次産業女子活躍推進事業」を活用し、世代を超えた女性農業者による郷土料理づくりや先進事例報告、女性農業者の抱える問題、その解決に向けた意見交換などの活動を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○交流会では、若手女性農業者が抱える子育てや農業経営の悩みを先輩女性農業者がアドバイスする姿が見られるなど、女性が働きやすい環境づくりについて考えるよい機会となった。</p> <p>○今後は、地域リーダーと成り得る女性農業者の育成に向け、交流活動を継続して実施するとともに、今年度結成された若手女性農業者組織の充実に向け、市内に点在する若い女性農業者の発掘とネットワーク化をマイネットと連携し進めていきたい。</p>			
 		<p>左：ふるさと料理づくりで交流</p> <p>右：班に分かれて話し合い</p>		




標 題	家事負担を軽減！農繁期に役立つ時短料理の商品化を検討		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年7月18日	場所	八幡浜市農産物加工施設	
指導対象	特定非営利活動法人みかんの花工房 会員（7人）	連携 機関	八幡浜市	
普及指導 内容	<p>○当法人では今年度、「ひめの国一次産業女子活躍推進事業」を活用して、農繁期や日々の家事負担軽減につながる時短料理の商品開発を目指しており、第1回検討会では、料理研究家の中村和憲氏から時短につながる調理方法を学んだ。</p> <p>○両室は会の開催を支援するとともに、商品開発の方向性や学んだ調理技術の地域への波及方法についてアドバイスした。</p>			
結果と今後	<p>○カレーや麻婆茄子など計6品が1時間半で調理でき、会員からは「すぐに取り入れられ、家事負担を軽減できる」「料理に不慣れな男性でもできる」と好評であった。</p> <p>○今後は、「学んだ調理技術を活かした」レトルト食品の商品開発を目指して、高温高圧調理器の研修会（8月）や、若い世代との意見交換・試食会（10月）を予定しており、引き続き時短料理の商品開発を支援する。</p>			
				<p><b>【みかんの花工房】</b> 八幡浜市の女性農業者を中心に、自家製農作物を使った加工品作りを行っているNPO法人。マーマレード大会でも多くの会員が入賞している。</p>
講師に調理方法を学ぶ会員		試作したメニュー（6品）		

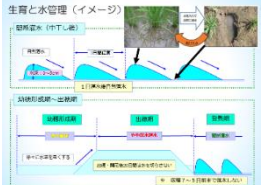


標 題	さといも栽培管理の意識統一		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年7月6日	場所	東予管内さといもほ場	
指導対象	東予地区さといも技術協議会	連携 機関	JA 全農えひめ、東予地方局、県農林水産研究所等	
普及指導 内容	<p>○現在の栽培状況や、今後の栽培管理のポイントを確認するために、各JA（うま、えひめ未来、周桑、おちいまばり）の4ほ場を巡回し、現地で技術対策を検討した。</p> <p>○高温・乾燥による葉焼けが懸念されるため、定期的なかん水の実施により芋の肥大を促進させるほか、疫病やハダニ類等の病虫害防除を徹底することなどを申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○JA 担当者からは、「各地域の栽培管理や生育状況、注意点が把握できたので、農家指導に役立てたい」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、当協議会活動を支援するとともに、さといもの生産性向上に向け、栽培指導に取り組む。</p>			
		<p><b>【東予地区さといも技術協議会】</b> 東予地区のさといも生産者の栽培技術の高位平準化を図るため、全農えひめ、農業協同組合、愛媛県の機関で構成する協議会</p>		
生育状況を確認				



標 題	ハウス内環境の「見える化」の効果を再認識		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年7月13日	場所	中予地方局	
指導対象	だんだんの会	連携機関	JA（松山市、えひめ中央） 中予地方局地域農業育成室	
普及指導内容	<p>○昨年度から取り組んでいる「いちご環境制御技術」の振り返り研修会を行い、炭酸ガス濃度や温湿度をグラフ化し、ハウス内環境が目標値に届いているか確認し、生産者へ炭酸ガス濃度設定値やハウスの換気方法等を指導した。</p> <p>○生育調査は、草丈が伸びにくくなる11月から実施するよう指導し、観察の重要性を伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「今まで機械任せにしていたが、見える化により現状が分かった。早速改善したい」「生育調査により、いちごの生育速度が分かった」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、いちごの生産性向上のため、環境制御等の技術指導に取り組む。</p>			
 <p>ハウス内環境データを再確認</p>		<p><b>【だんだんの会】</b> 中予地区でいちごの高品質多収技術確立に向け、環境制御技術に関心がある若手モデル農家を選抜し、モニタリング機器の設置や生育調査等により環境制御技術の習得を目指す会。若手生産者、JA 営農指導員、普及指導員で構成。</p>		

標 題	造成園地における緑肥を用いた土づくり		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年7月12日	場所	宇和島市吉田町白浦	
指導対象		連携機関	南予地方局 地域農業育成室 農村整備課	
普及指導内容	<p>○豪雨被害を受け表土が流された吉田町白浦の園地では、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、災害に強く生産性の高い園地づくりに取り組んでいる。</p> <p>○当課は、傾斜地に適した品種や播種方法を明らかにするため、昨年度、平坦な基盤整備園地で土づくり効果を確認した技術を応用し、緑肥栽培試験を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の試験では、夏作緑肥のソルゴー、クロタラリア、オオムギ、テフグラスの4種を、ばら蒔き、粘土団子の二通りの方法で播種し、生育状況及び土壌流亡効果を経時測定する。</p> <p>○9月以降には晩夏緑肥も播種し、農家や連携機関と効果を確認しながら、令和6年3月定植予定の温州みかん苗木が順調に育つよう土づくりに取り組む。</p>			
		 <p>左：緑肥の種子を混ぜた粘土団子作成 右：再編復旧園地で緑肥種子を播種</p>		

標 題	花き調査研究会で「さくらひめ」生産対策及び花木の有望品目導入を協議		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年7月7日	場所	花き研究指導室	
指導対象	普及指導員等（20人）	連携機関	県農林水産研究所 中予地方局産地戦略推進室	
普及指導内容	<p>○普及指導員の技術力・指導力向上を図るため、花き調査研究会を開催し、「さくらひめ」の収益性向上に向けた生産対策指導、花木の需要に応じた有望品目導入について協議した。</p> <p>○また、花き研究指導室内の試験ほ場を視察し、同室から花木有望品目の生育特性や、収量性、市場評価等に関する紹介を行った。</p>			
結果と今後	<p>○「さくらひめ」は、気象条件を考慮した適期定植、散水や寒冷紗等による夏季昇温対策、葉・芽かぎの徹底が栽培管理上重要となることを申し合わせた。</p> <p>○花木については、花き研究指導室で実施している有望品目の現地適応性試験の実施状況や産地の反応を情報共有し、今後の導入検討に向けた意識統一を図った。</p> <p>○今後、「さくらひめ」の令和5年産作付けに向けて技術指導を徹底するとともに、花木有望品目の導入検討を進め、県産花きの生産振興を図っていく。</p>			
				
「さくらひめ」の栽培管理ポイントを説明		花木有望品目の特性を紹介		

標 題	「ひめの凜」の中干講習会の開催		機関名	高度普及推進グループ
年月日	令和5年7月24日～7月31日	場所	県内11カ所（延べ14回）	
指導対象	ひめの凜認定栽培者ほか（314人）	連携機関	JA（周桑、未来、東宇和、えひめ南、越智今治、今治立花、全農）	
普及指導内容	<p>○適期の穂肥のための葉色や幼穂の状態、中干し後の水管理（間断灌水等）の重要性について、栽培管理ポイントを資料に基づき解説。なお、高温予想時のかけ流しや夜間入水、台風通過時の深水など指導。</p> <p>○また、「いもち病」や「トビイロウンカ」、「稲こうじ病」等の適期防除の必要性を指導。</p> <p>○現地ほ場において実際に葉色や幼穂長を確認し、適期・適量の穂肥について認定栽培者に周知。</p>			
結果と今後	<p>○講習会に用いた中干し資料は県ホームページで公開し、認定栽培者等への周知を図る予定。</p> <p>○7月には穂肥講習会を予定し、令和5年産のひめの凜の高品質・良食味米生産につなげる。</p>			
				
間断灌水等のイメージ		室内研修		現地での栽培講習

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543